



## 一年間を振り返って

教育長 白杵 國男

3月の声を聞き、吹く風、空の青さ、日差し  
の暖かさに春の気配を感じます。1年間の  
教育活動に終止符を打ち、新たな年度を迎  
える準備に心の切り替えや意欲・希望など  
新鮮な空気を感じる時期と思います。

23年度を振り返ってみますと、子どもた  
ちの文化・スポーツ分野での対外的な活躍、  
学習意欲向上事業の取組と推進、総合教育  
センターでの各種研修会への多くの参加、  
県のWeb配信に対して各学校での取組によ  
り学力向上の方向性が見えてきていること  
などの成果を上げています。一方では、  
交通速度違反や児童生徒の問題行動事案  
も多くあり、学校教育への信頼が問われ  
る一年間でした。

その中で考えさせられることは、教師  
の指導性と指導力についてであります。指  
導力は学力の定着や学習内容を理解させ  
るための指導方法や指導技術と考え、指  
導性は学習に集中させたり、学習への取  
組や学習態度を身に付けさせるために励  
ましたり、時には厳しく注意して学習に  
向かわせる指導と考えます。指導力は向  
上しても指導性が発揮できずに教室で授  
業が成立しない現象はないでしょうか。



一昔前は、指導力はなくても一斉指導で  
知識詰め込み型の授業が行われ、学習態  
度が悪ければ厳しく注意されてじっと我  
慢しながら授業を受ける時代でもあっ  
たように思います。

今は、教師の指導力が問われる時代  
です。子どもたちの主体性が重視され、  
分かる授業や学習することが楽しいと思  
える授業実践が求められています。専門  
職として当然のことですが、同時に学  
習の躰や学習態度も指導できる教師で  
なければと考えます。指導力と指導性  
は、車の両輪と考えていただきたいと思  
います。

## 信頼される教職員を目指して

管理主事 羽二生 裕

「光陰矢のごとし」と言いますが、各学  
校では年度末・年度初めの諸準備等に向  
けて、忙しい時期を迎えていることと思  
います。

昨年9月以降、県内では重大な教職員  
事故が発生しています。「子どもに説明  
できないことは絶対にしない」。これが、  
教育公務員としてのサービスの大原則  
です。しかしながら、依然として教職員  
の非違行為が跡を絶たず、学校教育に  
対する信頼が大きく損なわれようとして  
います。佐渡市教育委員会ではこの事  
態を重く受け止め、2月29日に「非  
違行為根絶のための緊急校長会」を開  
催しました。

佐渡管内における非違行為の80%以  
上は速度超過違反と交差点での事故で  
す。そこで、緊急校長会では、佐渡管  
内全職員で以下の目標に取り組むこと  
にしました。

**年度末・年度初めの「速度超過をゼロ、  
交差点での交通事故をゼロ」とする。**

このことにより、佐渡管内での重大な  
非違行為の発生を全職員で防ぐことに  
します。非違行為は決して他人事では  
ありません。自分自身のこととして受  
け止め、今からすぐに実践できる以  
下5点を、各校で一人一人が確実に  
実践してください。

ア 運転速度を「制限速度」に抑えること  
イ 交差点を通行する際「今よりもう  
一度多く左右確認」をすること

ウ 「タイヤが物理的に停止して」初め  
て一時停止と捉えること

エ 「事故処理カード」を再確認する  
こと  
オ 安全な車間距離をとり運転する  
こと

ここ2年、年度初めの4月に「教職員  
等の緊急・交通事故防止について」  
(通知)が市教委から出されています。  
軽微な事故を一人一人が意識し防  
ぐことから、大きな信頼を得られる  
ようにしていきましょう。学校教育は  
一人一人の教職員の信頼から成り立  
っています。

## 年一回は受講し元気をもらいませんか

教育指導主事 半田 廣

「小学校の学習の様子や苦心されている様子が分かった。」(中学校教員)

「中学校の先生方の指導の工夫を知ることができて、とてもよかった。」(小学校教員)

「不登校の現状は、厳しい。でも、頑張ろうと思った。この研修で力をもらった。」

引用が長くなりましたが、アンケートにあった研修講座受講者の感想です。

佐渡総合教育センターでは、理科センターやライブラリーと共に、教職員の皆様に研修の機会を提供しています。今年度は、センター直轄の事業として、昨年度と同様20の研修講座を用意しました。

その結果、昨年度比189名増の594名(延べ)の参加を得ることができました。当センターでは、県や下越の指導主事を講師として招く場合、原則として悉皆研修にしています。今年度はその割合が多かったことが増加の理由だと思えますが、それだけではなく新指導要領の完全実施を迎え、研修への関心が高まったことも背景にあると思えます。

また、受講した講座の満足度は大変高く、受講者の99パーセントが「満足」、「ほぼ満足」と答えています。現在の教育課題や現場の要望に沿った企画をし、優れた講師にお願いするように努めてきましたが、幾分でも応えられたことを喜んでいきます。

さらに、今年度、中学校教員の参加が大変増えたのもうれしいことでした。当センターでは、今年度、小中の円滑な接続を目標の一つに掲げ、講座の中で中学校区ごとの協議の機会を多くもつようにしてきました。その結果とも言えますが、中学校で授業改善や職員研修の取組が浸透してきていることの表れでもあると思えます。

冒頭、紹介した感想のように、講座では元気がもらえます。来年度は、皆様から一度は講座を受講していただけたらと思えます。

最後になりましたが、御多用の中、講師や発表者を引き受けてくださり、すばらしい講義や実践の紹介をしていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

## 学校訪問の成果と課題

下越教育事務所 指導主事 本間 健人

新潟県教育委員会では、学力向上を最重要課題ととらえ、その対策の一つとして「学力向上に係る中学校区訪問」を実施しています。

この1年間、各学校においては児童生徒の実態に応じた、全校体制で取り組む学力の向上対策を講じていただきましたことに感謝申し上げます。2回の訪問で明らかになった成果と課題、その改善策は次の通りです。

### 〈成 果〉

- ・授業改善において、各種学力調査やWeb配信集計システムを活用し、学力実態や学習状況を的確に把握して、自校の課題を明確にしている。「何をどうすればいいのか」が分かる具体的な方策を立てて実践に取り組んでいる学校が多い。
- ・学力向上を図るため、学習習慣の確立に努めている。授業で学習意欲を高め、家庭学習では繰り返し学習によって知識・技能を定着させるなどの工夫がなされている。

### 〈課 題〉

- ・全校体制での学力向上に取り組んでいるが、研究授業において、授業の手立ての効果について数値による客観的評価が十分になされておらず、手立ての改善が不十分な学校が見られる。
- ・公開授業に基づいた協議の中で、小中連携の視点で具体的に話し合う場面が少ない。

### 〈改善に向けて〉

下越教育事務所では24年度の中学校区訪問での公開授業等での課題解決に活用していただけるよう、昨年に引き続き、「**教育下越**」特別号『**下越Eduナビ2012**』を発行いたしました。全教職員に増し刷りし、校内研修や中学校区訪問での授業改善に有効に活用していただきたいと思います。

また、既に通知した通り24年度も昨年同様に「学力向上に係る計画訪問」を中学校区単位で実施します。今年まで佐渡市では2つの拡大中学校区を含んだ実施となっておりますが、24年度は15全中学校区での実施となります。小中学校の連携がより深まることを期待しています。